

獣害対策 地域の力を生かせ

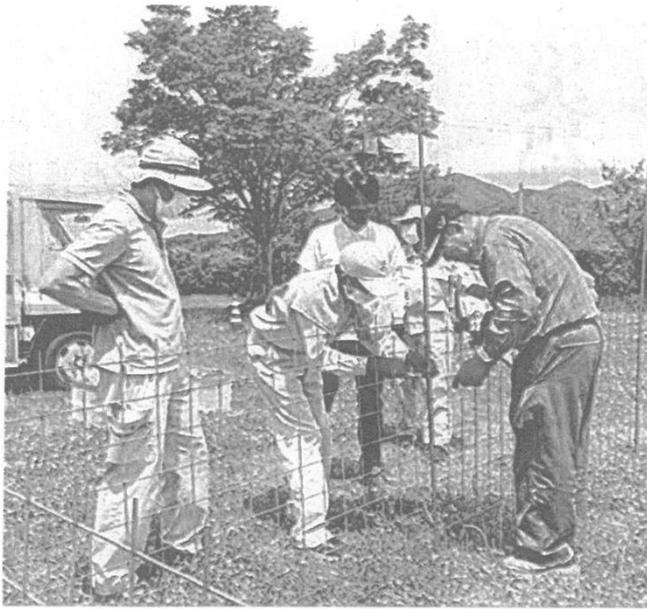
来月2日 丹波篠山でフォーラム

講演やパネル討論会

野生動物による農作物などの被害対策に取り組みながら地域活性化につなげる「第6回獣がいフォーラム」が3月2日、丹波篠山市網掛の四季の森生涯学習センター東館で開かれる。ヒグマと人間の共存に取り組む北海道の実例などを取り上げ、住民や農家、登山者らが協働をキーワードに野生動物との付き合い方を考える。

市内のNPO法人「里地里山問題研究所」(さともしん)や市などがつくる実行委員会が主催し、テーマは「市民の力で変わる 獣がい対策への新しいアプローチ」。被害の当事者だけでなく、地域内外の多様な関係者が協力できる仕組みを作り、野生動物を地域の「プラスの存在」に変える対策を考えようという。

午前9時半に開会し、酪農学園大学(北海道)でヒグマの生態や保全管理を研究する 教授が「市



実習で電気柵を設置する県立篠山東雲高校の生徒ら(丹波篠山市で)＝市提供

民によるヒグマ対策 すみ分けによる共存を目指して私たちにできること」の演題で基調講演する。

続いて、「『住民』『関係人口』『市民』多様な主体の協働を促すには」として、県森林動物研究センター主任研究員の

県立大教授をコーディネーターにパネル討論を開く。討論で、地元の矢代自治会の

さんが「地域住民の力で取り組む獣がい対策」をテーマに話し、放置された柿をジャムに活用した県立篠山東雲高校生徒による事例、さともの

代表理事による里山の実りを生かす「食卓から地域を応援!」と題した推進プロジェクト、獣害柵を点検する登山ツアーの可能性が紹介される。

午後1時から、初心者向けの「獣がい対策はじめの一歩」と、特定のテーマをもとに新たなアイデアの創出を目指す「アイデアソン」の分科会を開く。

参加無料。事前申し込み制だが、当日参加もできる。



詳しくはQRコードで問い合わせは丹波篠山市森づくり課

(079・552・1117)へ。

2024年2月27日

読売新聞